

磯子区地域福祉保健計画 第5期スイッチ ON 磯子 素案

計画期間:令和8年(2026)年度～令和 12(2030)年度



令和7年 10 月

磯子区地域福祉保健計画 策定・推進検討会

磯子区地域ケアプラザ

磯子区社会福祉協議会

磯子区役所

未来に はばたく磯子 100周年ありがとう

【福祉・保健は日々の暮らしに関わる、最も身近なこと】

わたしたちのまち磯子は、9つの地域を中心に日々の暮らしが営まれる中で、お互いを支えあう福祉・保健のこころが育まれてきました。福祉・保健はみなさん一人ひとりにとって、特別なことをするのではなく、日々のちょっとした気づきや行動の中にあるもの、一緒に楽しみながら取り組むものです。

子どもから青少年・若年層・高齢者・障害者・外国籍の人など、磯子に住むすべての人々が、お互いを思いやり、つながっていくことが大切です。



「福祉」＝「特別なこと」ではなく、
身近な暮らしを
よりよくすることだよ！

【あなたの声と一歩が、まちを変えます】

磯子区地域福祉保健計画(スイッチ ON 磯子)は、誰もが幸せに暮らせるまちをみんなで見えぬ計画で、第1期計画が策定された平成 18 年度から、20 年の長きにわたり、磯子に住む人々の福祉保健のよりどころとなってきました。これからの磯子をよりよくするために、この計画を自分事としてとらえ、自らのこころとからだの健康も大切にしながら、あなたの声と一歩で変えていきませんか。そうした取組を地域のみなさんと一緒にすすめることで、自分たちの暮らしやまちをよりよいものにすることにつながります。「スイッチON磯子」の愛称は、一人ひとりができることから始めるきっかけとなることを願って、区民からの提案に基づき命名されました。

【区制 100 周年の歩みを未来につなぐ】

磯子区は、昭和2年(1927年)10月1日に、横浜市で初めて区制を敷かれた際に、誕生した5区のうちのひとつで、令和9年(2027年)に 100 歳を迎えます。

これまでの磯子のまちを築き上げてきた皆さんへの感謝を胸に、地域の力で未来にはばたく次の世代を、笑顔あふれる磯子のまちを、育んでいきましょう。

一人ひとりが自分にできることから
一歩踏み出せばいいんだよね。
それぞれがスイッチ ON だよ。



磯子区地域福祉保健計画(スイッチ ON 磯子) 案内役「梅さん」

生年月日:平成 18 年4月1日(スイッチ ON 磯子の開始日)

身長:30cm

好きな言葉:人情

嫌いな言葉:ひとりぼっち

趣味:人と集い、遊ぶこと

特技:みんなを笑顔で元気にすること

覚えてね!



【ごあいさつ】

(区長)

(連長)

(区社協会長)

調整中

目次

1章 地域福祉保健計画について

- (1) 地域福祉保健計画の概要1
 - 計画の必要性
 - 計画の法的位置づけ
 - 計画の構成
 - 他の行政計画との関係性
- (2) 磯子区の現状3
- (3) 第4期計画の振返りと第5期計画の方向性8

2章 第5期スイッチ ON 磯子について

- (1) 基本理念と基本目標10
- (2) 区全域計画11
 - 区全域計画を推進する主体
 - 基本目標Ⅰ「お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち」
 - 一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること
 - 区役所・区社協・ケアプラザの取組
 - 基本目標Ⅱ「つながりを通して 健やかに暮らせるまち」
 - 一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること
 - 区役所・区社協・ケアプラザの取組
 - 基本目標Ⅲ「共に支えあう お互いさまのまち」
 - 一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること
 - 区役所・区社協・ケアプラザの取組
- (3) 地区別計画25
 - 根岸地区 / 滝頭地区 / 岡村地区 / 磯子地区 / 汐見台地区
 - 屏風ヶ浦地区 / 杉田地区 / 上笹下地区 / 洋光台地区
 - 地域で活動する主な関係団体や各種団体の紹介

3章 スイッチ ON 磯子の進め方

(1) 計画の推進体制	26
区全域計画の推進体制	27
地区別計画の推進体制	28
(2) 計画の振り返り	
区全域計画	29
地区別計画	30
スイッチ ON 磯子 全体振り返り	31

4章 資料

(1) 策定の経過	○
(2) データ集	○
(3) 用語解説	○
(4) 地図・問い合わせ一覧	○
(5) 概要版	○

調整中

<こんな取組もあります>

- ☐ 横浜子育てサポートシステム(通称「子サポ」)～地域ぐるみの子育て支援を目指して～15
- ☐ 「いそごでさがそ」でお気に入りを見つけよう15
- ☐ 生活困窮者自立支援制度～くらしの困った！を一人で悩まず、相談してみませんか？～.....16
- ☐ こどもと地域がつながるって、いいね！～こどもたちが主役となる地域の活動をはぐくむ・・16
- ☐ 区民の口の健康を守る！19
- ☐ 磯子の魅力発信ポータルサイト「ISOGO+」を使ってまちに出てみよう19
- ☐ 自治会・町内会のデジタル化が進んでいます！20
- ☐ こども食堂の取組～お腹も心もいっぱいに～.....20
- ☐ 在宅避難のすすめ24
- ☐ ゆるやかな見守り「いそまる」活動中！24
- ☐ フードドライブ～「もったいない」を「ありがとう」へ～25
- ☐ 災害時の共助～日頃のつながりが、災害時の助け合いに～.....25

1章

地域福祉保健計画について

(1) 地域福祉保健計画の概要

横浜市の地域福祉保健計画は、住民、事業者、公的機関(区役所・区社協・ケアプラザ等)が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近なつながり・支えあいの仕組みづくりを進めることで、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指す計画です。

計画の必要性

地域の中でつながりを持つことは、子育て世代や様々な生活課題を抱える人が、困ったときに相談できる相手ができたり、支援が必要な人がいることに気づいたり、いざというときの支えあい・助け合いにつながったりと、地域で暮らす人々の安心・安全の土台です。

また、普段からのつながりがあれば、地域課題をみんなで解決するために話し合ったり、そのような地域活動に参加することで居場所や役割を見出したりと、人もまちも元気になります。

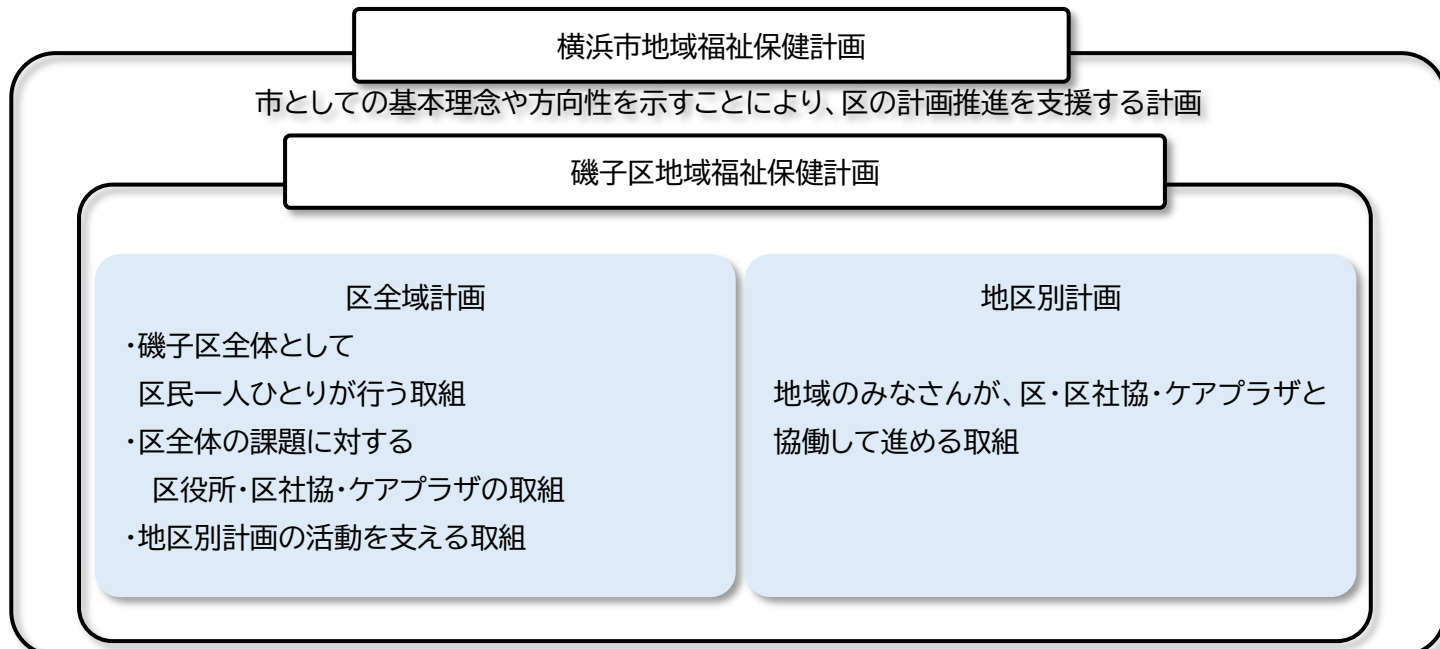
地域における「つながり」が徐々に希薄化している中で、乳幼児から高齢者までの幅広い世代、外国人、障害のある人等、様々な立場や背景のある人たちが誰もが、安心して自分らしく健やかに暮らしていくためには、区民のみなさん、公的機関、関係団体等それぞれがつながりあい、できることを協力しながら福祉保健活動の基盤や仕組みづくりを行う「地域福祉保健計画」はますます必要です。

計画の法的位置づけ

社会福祉法107条で、地域福祉の推進に関する事項を定める計画として、「市町村地域福祉計画」が位置付けられており、横浜市では福祉と保健の取組を一体的に進めていくため、横浜市及び18区それぞれで「地域福祉保健計画」を策定しています。

計画の構成

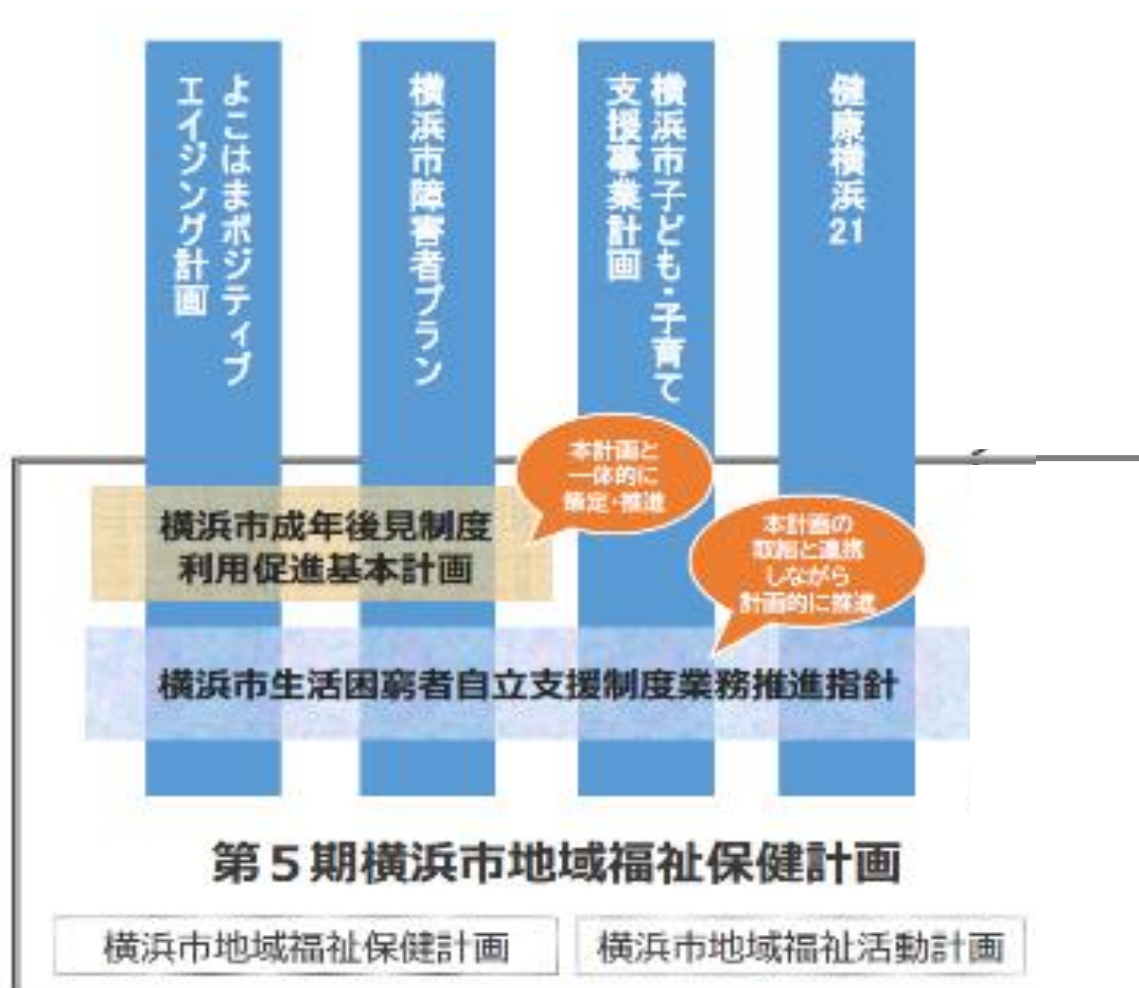
横浜市地域福祉保健計画の方向性をもとに、磯子区地域福祉保健計画を策定しています。



他の行政計画との関係性

横浜市では、各法を根拠とする高齢・障害・子ども・健康づくり等の分野別計画を策定しています。地域福祉保健計画は、それぞれの分野別計画を「地域」の視点でつなぎ、横断的に展開していく仕組みづくりの役割を果たします。

また、第4期計画からは、権利擁護及び生活困窮に対する取組が、地域福祉保健計画の趣旨と重なるため、一体的に推進しています。

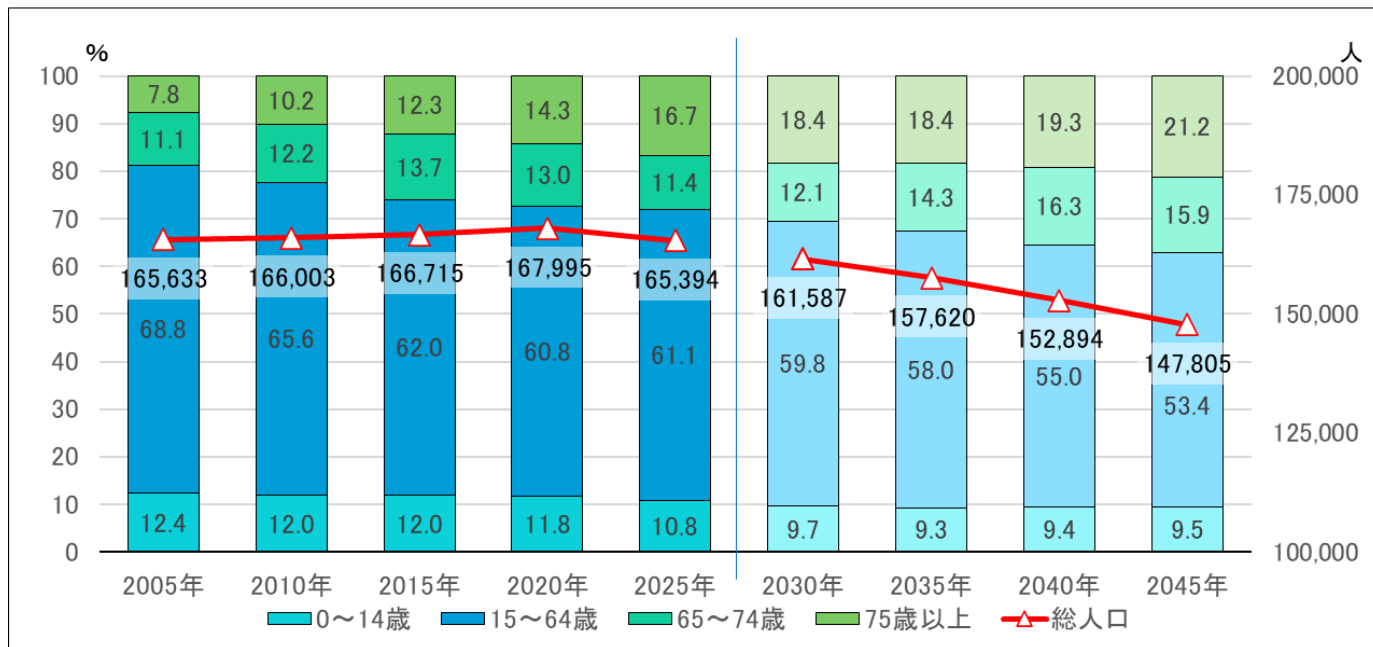


(2) 磯子区の現状

グラフ内に「横浜市」の記載がないデータはすべて磯子区の数値です。

●人口と世帯の推移

人口と年齢4区分人口の構成比と将来推計

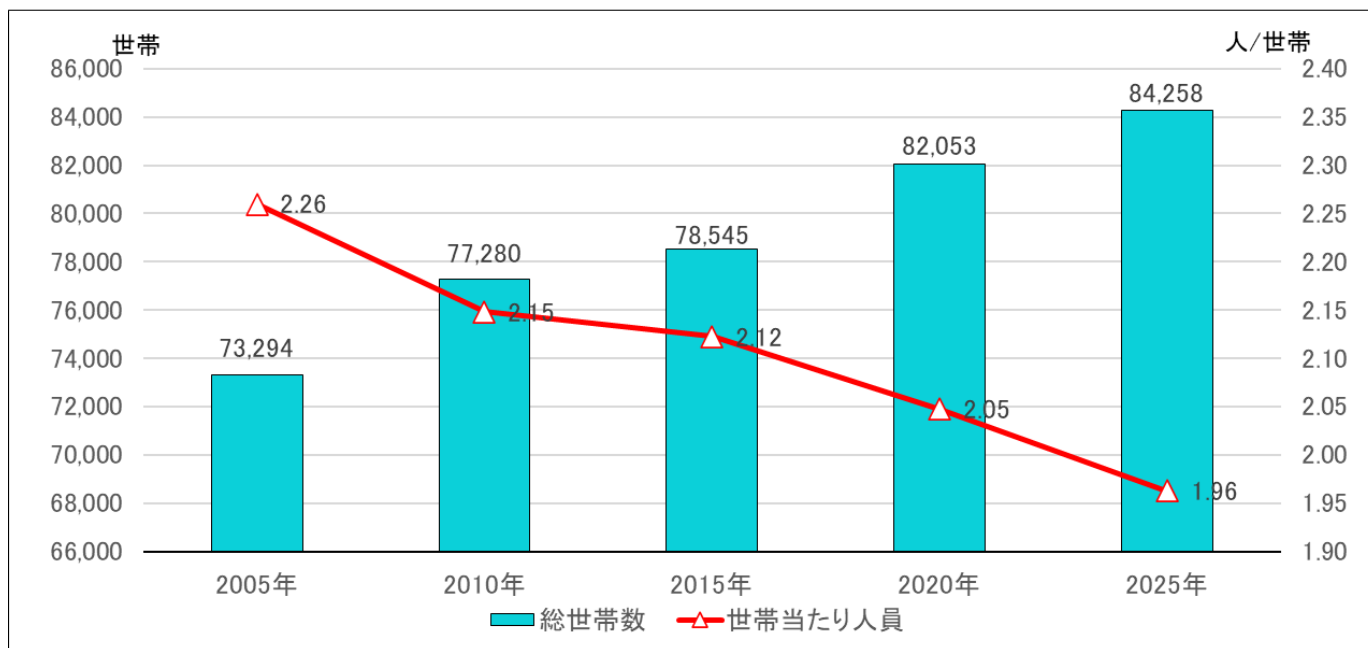


出典 現況：年齢別人口(住民基本台帳)/横浜市統計情報ポータル

推計：横浜市将来推計人口(2024年7月)/横浜市統計情報ポータル

総人口は2020年をピークに減少傾向となり、2045年は2020年と比較して、約2万人減少(12%減)となると推計されています。今後、さらに高齢化が進むと予測されます。

世帯数と世帯当たり人員数

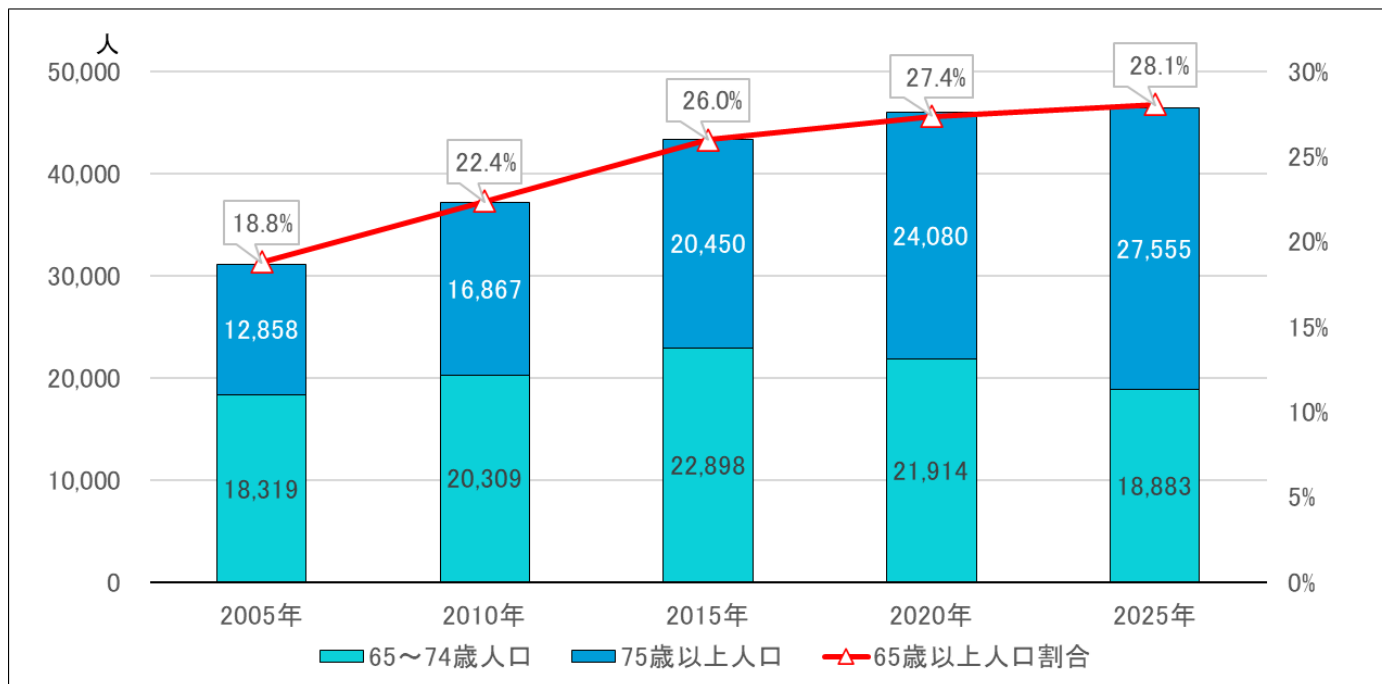


出典 世帯人員別世帯数(住民基本台帳)/横浜市統計情報ポータル

世帯当たり人員数が減少する一方、世帯数は増加傾向にあります。

●対象者別

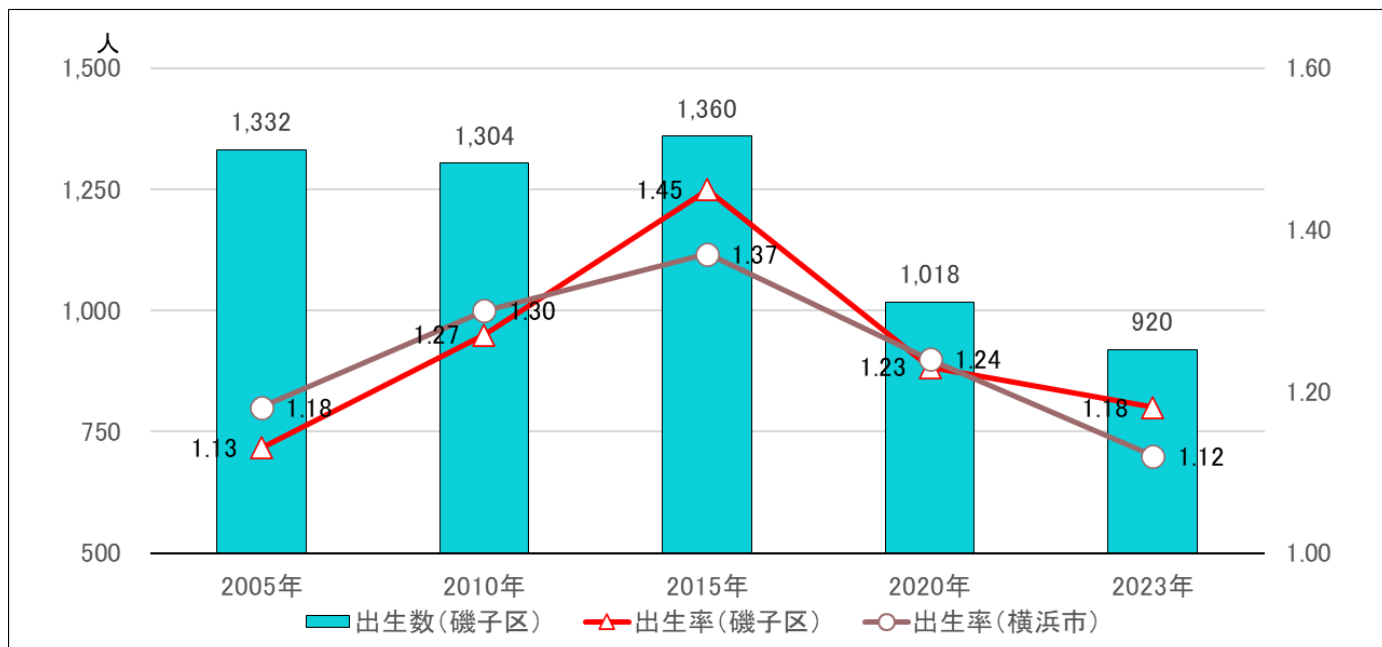
高齢者（高齢者人口と高齢化率）



出典 年齢別人口(住民基本台帳)/横浜市統計情報ポータル

高齢者は増加しており、中でも75歳以上は一貫して増え続けています。

子ども（出生数と出生率）

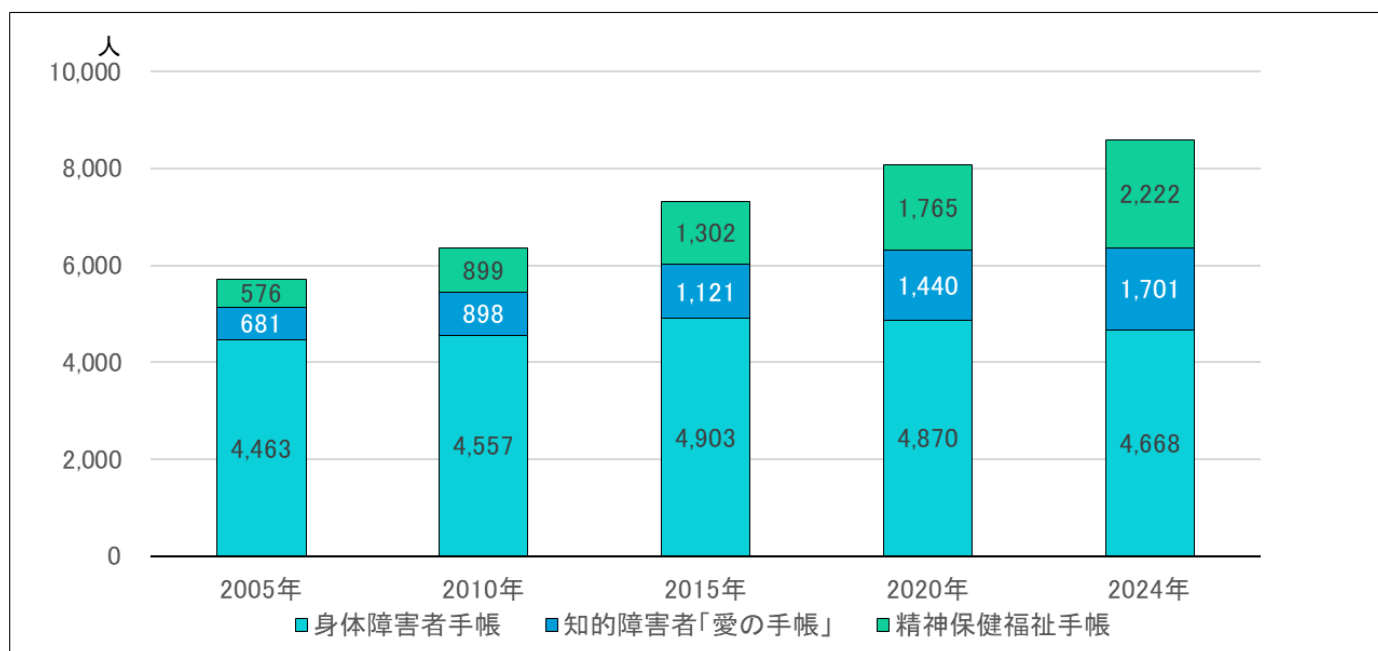


出典 出生数:横浜市統計書(横浜市衛生年報)/横浜市統計情報ポータル

出生率:横浜市合計特殊出生率の推移/横浜市統計情報ポータル

子どもの出生率は、2015 年までは上昇傾向でしたが、それ以降は減少傾向です。

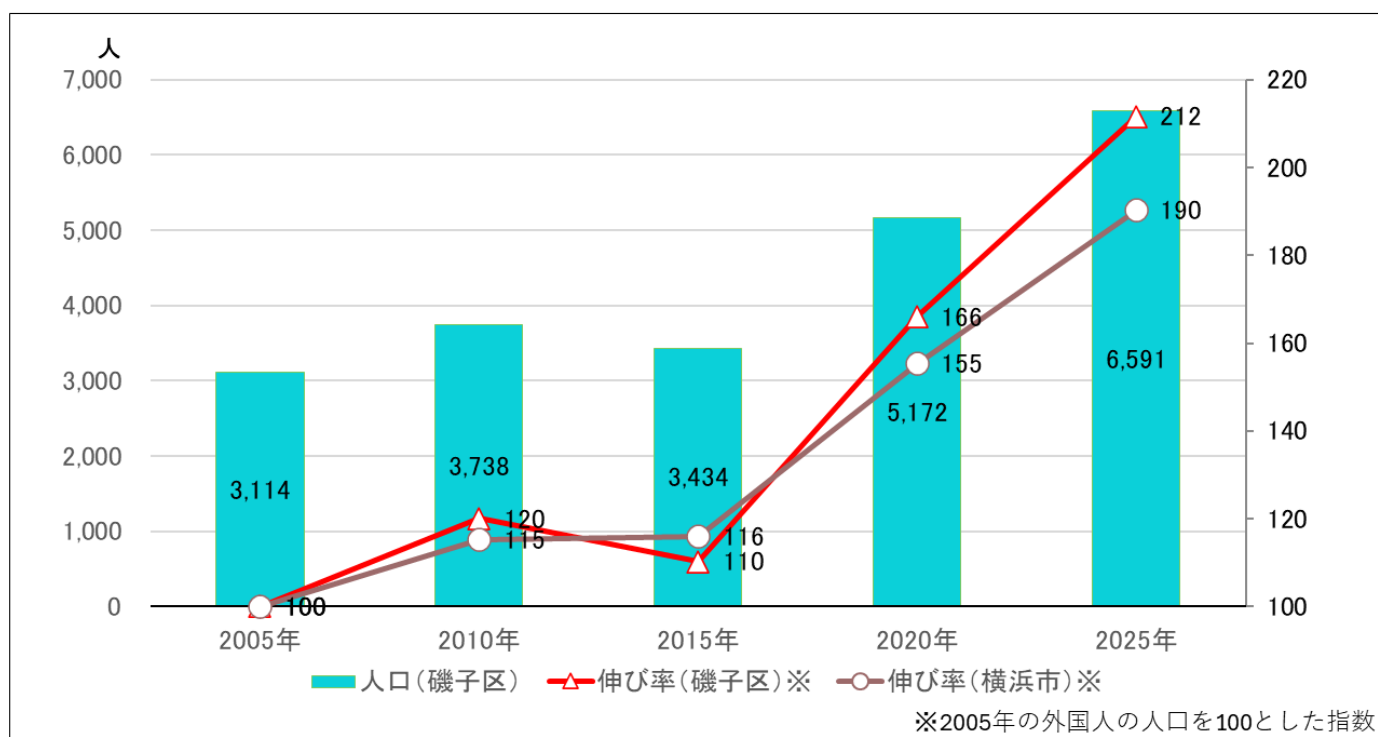
障害者（障害者手帳所持者数）



出典 障害者の福祉(横浜市統計書)各年3月31日現在/横浜市統計情報ポータル

知的障害者「愛の手帳」や精神保健福祉手帳の交付が増加しています。

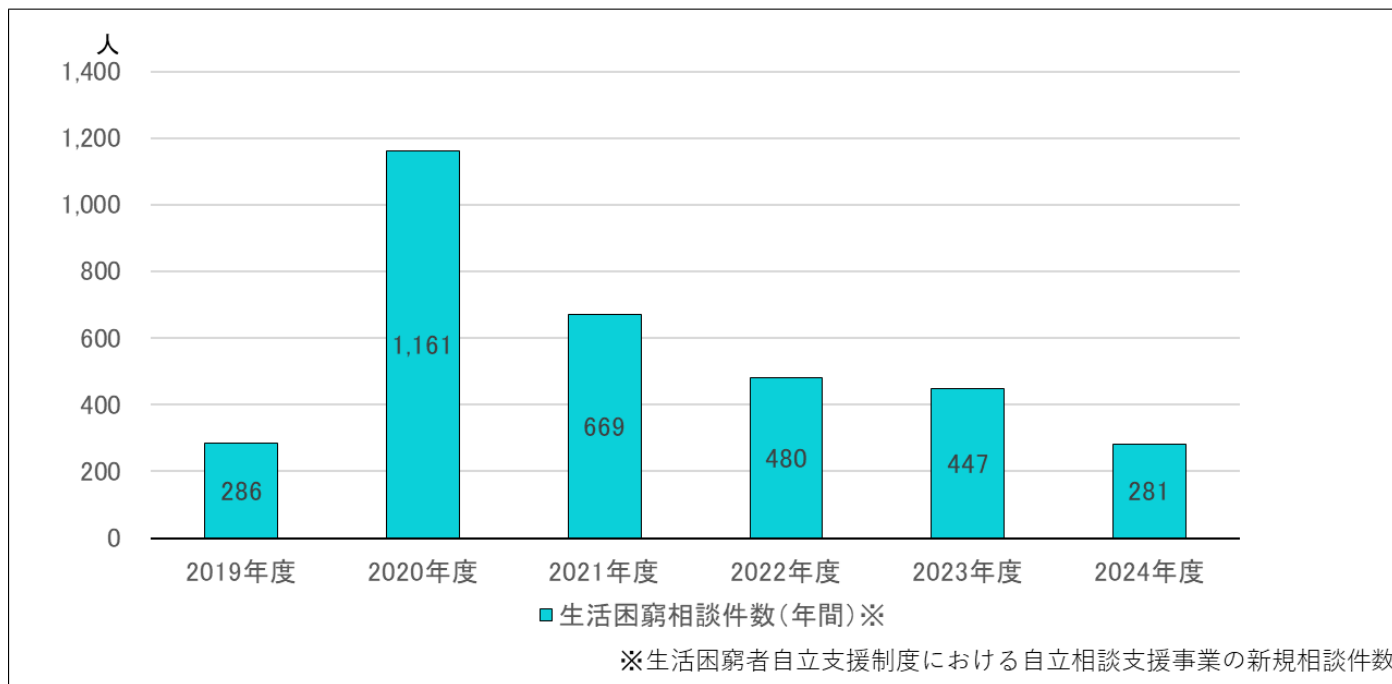
外国人（人口）



出典 外国人の人口(住民基本台帳)/横浜市統計情報ポータル

外国人の人口は2015年から増え続けています。

生活困窮相談件数

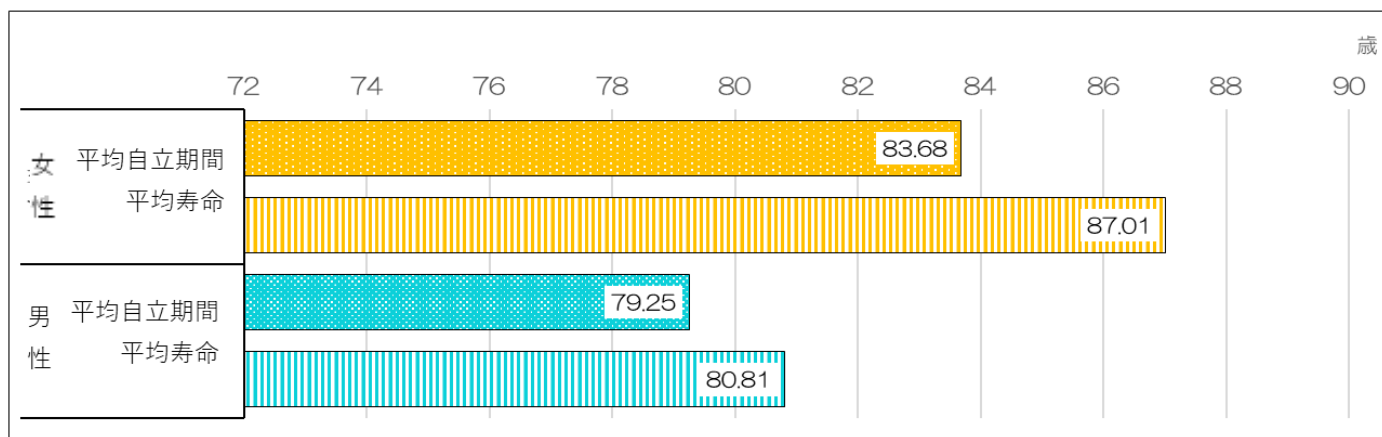


出典 磯子区の福祉と保健衛生(各年度版)

生活困窮相談件数は、2020年度のコロナ禍で大幅に増加しましたが、その後は減少傾向にあり、現在はコロナ前と同等の水準となっています。

●健康

平均寿命と平均自立期間（2023年）



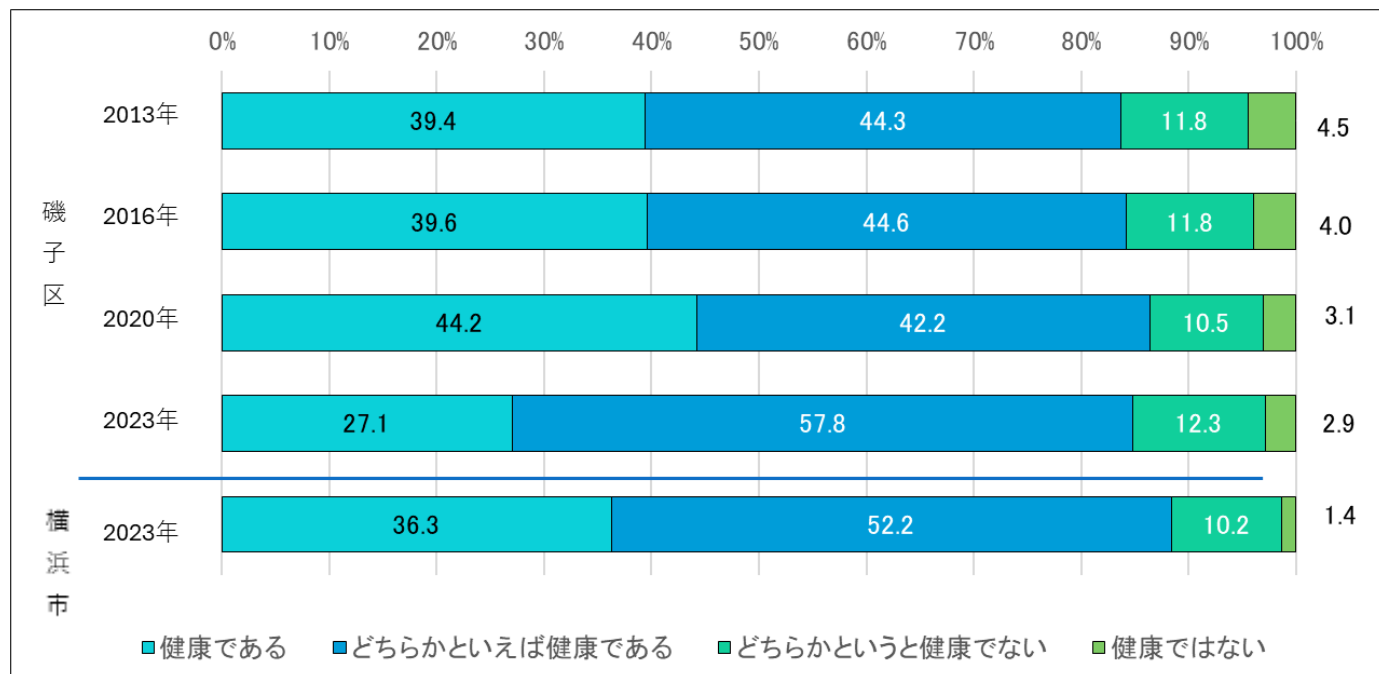
※平均自立期間とは「日常生活に介護を要しない期間の平均」を指し、介護保険法の要介護認定における「要介護2～5」を介護を要する状態として、市が保有する介護保険データから算出

※平均寿命とは、「生まれてから亡くなるまでの期間」を指し、厚生労働省研究班が公開している「健康寿命算定プログラム」を用いて横浜市独自に算出

出典 横浜市推計（市健康福祉局健康推進課）

男性は女性に比べ、平均自立期間は4年ほど短くなっています。

主観的健康観



出典 健康に関する市民意識調査/横浜市ホームページ

2023 年における磯子区は全市と比べて、「健康である」と感じている人の割合が低くなっています。

(3) 第4期計画の振返りと第5期計画の方向性

第4期計画の振返り

第4期計画では新たに、基本理念「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす」のもと、3つの基本目標を掲げました。「誰もが」には、年齢・性別・国籍・病気や障害の有無に関わらず、また、赤ちゃんから学童期、働く世代や子育て世代、リタイヤした世代から高齢者等のあらゆるライフサイクルが含まれるという意味を含め、磯子区に暮らす「あなた」が主役の計画という位置づけとしました。

第4期計画 全体像



スウィッチ ON 磯子は、誰もが「世代」や「属性」に関わらず、
磯子区に関わるみんなが取り組める計画だね。

<社会状況>

新型コロナウイルス感染症の流行により、日常生活に様々な影響・変化がありました。特に、スイッチON機子の推進に欠かせない地域活動においても、感染防止のため人と人が距離をとることが求められ、休止や変更を余儀なくされました。令和3年度横浜市意識調査では、新型コロナウイルス感染症の影響により地域の人とのつながりが減った割合は、全体で40%を超え、地域の人とのかかわりが分断されてしまったことが確認できます。

<地域の状況>

地域で活動するみなさんに第4期計画(令和3～7年度)の活動について「グループインタビュー」と「アンケート」を実施しました。それらを踏まえ、以下のキーワードにまとめました。

(「グループインタビュー」と「アンケート」の詳細は「4章 資料」に掲載)

第5期計画の方向性

【キーワード】**認めあう**

- ・コロナ禍で人や地域とのつながりが希薄になった経験を踏まえ、地域に住むどんな人とも、まずは知り、認めあうことが、つながりづくりの第1歩だということを改めて重視します。
- ・第5期横浜市地域福祉保健計画で、「自分らしく暮らす」ためには、「受け入れられている」、「『ここにいていい』と感じられること」が必要だとしています。同じまちの中で一人ひとりの多様性を広く受け入れ認めあうことで、自分らしく暮らす地域社会を目指します。

【キーワード】**つながる、健やか**

- ・地域の行事などに出ることで、自身と社会のつながりの場になって、居場所や社会貢献、いきがいにつながるというエピソードが多くありました。つながりを通して心身ともに健やかになることを目指します。

【キーワード】**支えあう**

- ・近所で会ったときのあいさつや、地域の行事などに出ることでうまれたつながりから、共に支えあう関係や地域活動をする人が増えていくことを目指します。



まずはお互いを知り、
地域の行事などに出ることでつながりが増えて、
ともに支えあう関係性になっていくんだね！

2章

第5期スイッチ ON 磯子について

(1) 基本理念と基本目標

第4期計画の振返りの中で、コロナ禍によって地域活動が停滞したこと等から、人や地域のつながりが大切と再認識がありました。

このことから、つながりを作るためにまずはお互いを知り、例えば地域の行事などに出ることで、ともに支えあう関係性になっていく順序に着目します。まずは身近な人のことを知り、顔見知りになった先に地域とのつながりがあり、地域とのつながりが心身の健康と支えあいの関係となっていくことを基本目標に表現しました。

なお、基本理念は大きく変わるものではないということと、区民のみなさんに定着していくよう、第4期計画から継続することとしています。

基本理念

誰もが 幸せに暮らせるまちを みんなでめざす



スイッチ ON 磯子の基本理念を引き続き定着していくよう、第4期計画から継続します！

基本目標

I お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち

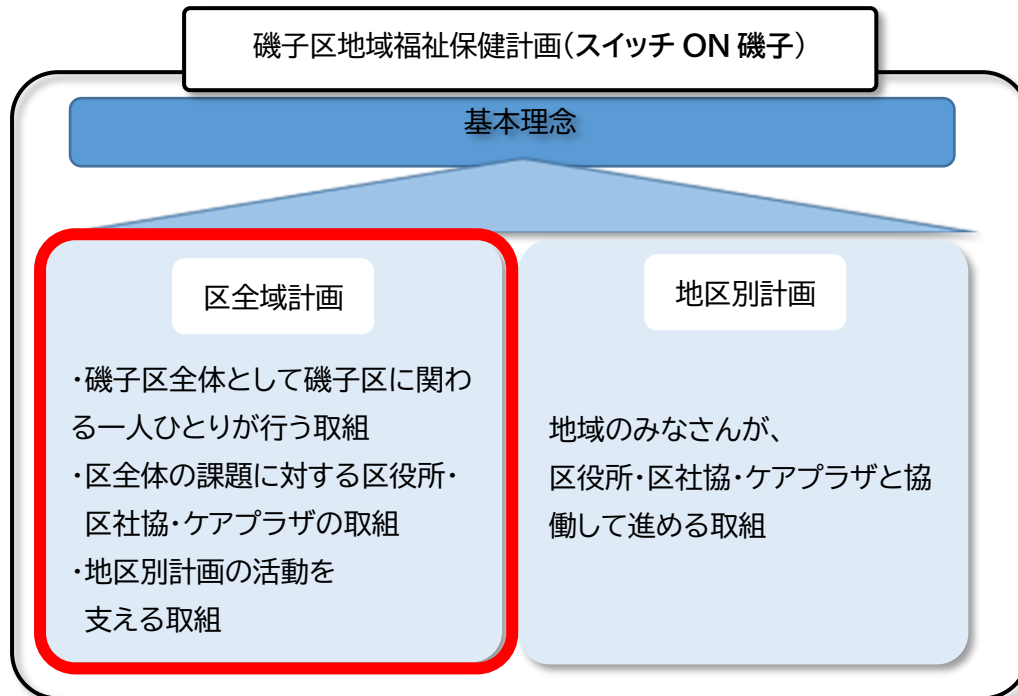
II つながりを通して 健やかに暮らせるまち

III 共に支えあう お互いさまのまち

	基本目標	目標のイメージ
I	お互いを認めあい 自分らしく暮らせるまち	自分のことも周りの人のことも認め、大切にしている・されている 好きなこと、できることを活かして自分らしく暮らしている 身近なところに居場所や参加の入口がある
II	つながりを通して 健やかに 暮らせるまち	必要とする人に情報や支援が届いている みんなが地域とつながる機会がある 地域で得意を活かす場がある 身近な健康づくりに取り組める場がある 心と体の健康が大切という意識が高まっている
III	共に支えあう お互いさまのまち	さりげない見守りの中で、支援が必要な人もそうでない人も、安心して暮らしている ときに支え、支えられるという関係性や仕組みがある それぞれの強みを活かし協力し、活動が広がっている

(2) 区全域計画

区全域計画とは、区全体の方向を示し、区民一人ひとりから、団体・関係機関が区域全体で進めていく取組をまとめたものです。



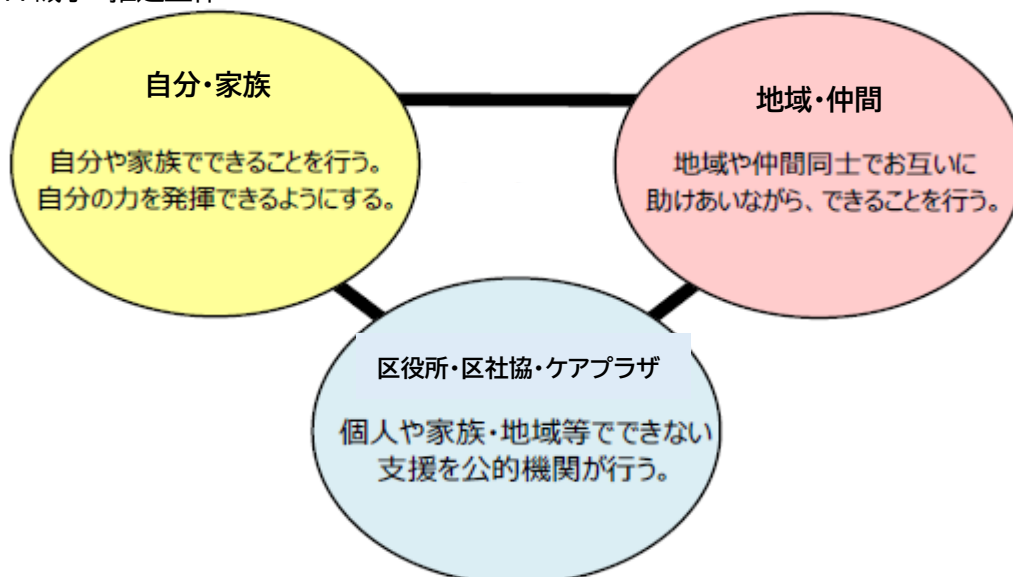
区全域計画を推進する主体

○ 磯子区に関わる一人ひとり(私たち一人ひとり、地域や仲間)

○ 区役所、区社協、ケアプラザなどの公的機関とその関係機関

一人ひとり・地域や仲間・公的機関などそれぞれが補いあい、関連し合いながら、基本理念「誰もが安心して暮らせるまち」を目指します。

<スイッチ ON 磯子 推進主体>



区役所・区社協・ケアプラザの取組は、「活動指標」と「目指す方向性」を明示し、基本目標を達成するために、どの程度活動したか、量的評価を行います(29 ページ参照)。

お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち

目標のイメージ

自分のことも周りの人のことも認め、大切にしている・されている
好きなこと、できることを活かして自分らしく暮らしている
身近なところに居場所や参加の入口がある

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- ・隣近所の人へあいさつしてみよう
 - ・利用できる福祉サービスなどを確認しておこう
 - ・一人ひとりの違いや個性を理解しよう
- (区・区社協・ケアプラザの取組支援)「多文化共生の推進」(13 ページへ)
「認知症サポーター養成講座」(13 ページへ)
- ・地域での居場所やイベントに参加してみよう
- (区・区社協・ケアプラザの取組支援)「同じ悩みを持った人が集まる場づくり」(14 ページへ)

<エピソード>

「健康ウォーキング」という活動に、近くに住む外国人の親子が参加したことで、近所であったときにも挨拶し合う関係になった。

イラスト
準備中

- 年齢や障害の有無、国籍に関わらず、違いや多様性を認めあい、さまざまな人が共に暮らせるよう相互理解を深めます。

【事業例：区役所】多文化共生の推進

多文化共生の拠点となる「いそご多文化共生ラウンジ」を中心に、地域と連携し、交流イベントや外国人住民の地域イベントへの参加促進等の取組を通じて、国籍や文化的背景に関わらず暮らしやすい地域づくりを進めます。

【活動指標】多文化共生ラウンジ利用者数(イベント参加者等含む)

令和 6 年度:3,857 人 (目指す方向性:↗)



<外国人住民向け防災座談会>

- 子どもが心身ともに健やかに成長し、養育者が安心して子育てをするために必要な知識の普及や相談しやすい環境づくりに取り組みます。

【事業例：区役所】地域子育て支援拠点「いそピヨ」の運営支援

「いそピヨ」では、就学前の子どもとその保護者が遊び、交流する場の提供や、子育て相談、研修会などを実施しています。

令和7年度からは、月1回程度の日曜日開所(Sunday いそピヨ)も開始し、平日忙しいご家族のお出かけ先としても好評です。

【活動指標】Sunday いそピヨで開催している講座等の参加者数

令和 6 年度:新規事業のためなし(目指す方向性:↗)



<いそピヨでの様子>

- 地域の福祉活動を多くの住民に知ってもらう機会を増やすと同時に、学校との連携や活動者団体同士の顔の見える関係づくりを進めます。

【事業例：区社協・ケアプラザ】福祉教育

学校・地域・企業等からの相談にもとづき、福祉教育プログラムを実施し、幅広い区民を対象に福祉への理解・啓発を行います。

【活動指標】福祉教育 実施数

令和 6 年度:□□ (目指す方向性:→)

写真
(調整中)

- 認知症の理解啓発など、一人ひとりがかけがえのない存在として権利と尊厳が守られ、その人らしい生活を続けられる仕組みづくりをしていきます。

【事業例：区役所・ケアプラザ】認知症サポーター養成講座

区内のケアプラザ等が認知症キャラバン・メイトと連携し、認知症サポーター養成講座を実施します。

【活動指標】認知症サポーター養成講座受講者数

令和 6 年度:23,312 人(目指す方向性:↗)

写真
(調整中)

●同じ悩みを持った人や仲間が、お互いを知り合えるきっかけとなるようつながる場・学びの場を提供します。

【事業例：ケアプラザ】同じ悩みを持った人が集まる場づくり

不安な気持ちや心配事を話せるよう、

同じ悩みを持った人が気軽に話したり情報交換できる

つどいやカフェを実施します。

【活動指標】同じ悩みを持った人が集まる場の数

令和6年度：□□(目指す方向性：→)

写真
(調整中)

<こんな取組もあります>

横浜子育てサポートシステム(通称「子サポ」) ～地域ぐるみでの子育て支援を目指して～

横浜市では、子どもを預かって欲しい人(利用会員)と、子どもを預かる人(提供会員)に会員登録していただき、条件の合う近隣の方との出会いをサポートする、「子サポ」を実施しています。通院や冠婚葬祭、就業などの事情による利用会員宅などでの預かり、保育所や幼稚園等への送迎のほか、買い物や習い事など、リフレッシュしたり自分の時間を持ちたい場合でも利用することができます。

磯子区では、磯子区地域子育て支援拠点「いそピヨ」で「子サポ」に関する手続きを行っています。

利用会員のみなさんからは、

「子どもの成長にあわせた視点で見守ってくれるので安心してお任せしている」

「提供会員さんなくして私たち家族の生活は考えられない」といった感謝の声が聞かれています。

提供会員のみなさんからは

「かわいい孫のようで、お子さんの来る日を

指折り数えて楽しみに待っている」

「育児のエネルギーを充電してほしい」

という声が聞かれており、

地域の中の支え合い・つながりづくりにも

つながっています。

子育て中のママ・パパをサポートしたい方、子育て経験のある方、

ぜひ自分ができることを身近な地域の支えあいに役立ててみませんか？

「いそピヨ 子サポ」

検索

問合せ先：地域子育て支援拠点 いそピヨ(●ページ参照)

イメージ図

準備中

「いそごでさがそ」でお気に入りを見つけよう

「いそごでさがそ」は、障害のある人が区内障害者施設にて作っている自主製品やカフェ等を写真で紹介している冊子です。

より多くの区民の人に冊子を手にとってもらい、障害のある人が自分たちで製品を作っているこの活動について知ってほしい、障害のある人の活動を身近に感じてほしいという思いで作成しています。

各郵便局、駅のPRボックス(磯子駅、新杉田駅など)、区役所で配架中。

この冊子で、あなたのお気に入りのお菓子やグッズを見つけてみませんか？

問合せ先：区役所 高齢・障害支援課(●ページ)



生活困窮者自立支援制度～くらしの困った！を一人で悩まず、相談してみませんか？～

「仕事が見つからない」「家計が苦しい」「子どもの学習環境が心配」

——そんな声に寄り添うのが、生活困窮者自立支援制度です。

お仕事探し、家計の悩みのアドバイス、一時的な衣食住の提供、子どもの学習サポートなど、生活の困りごとを抱えている人に寄り添い、解決策を一緒に考えます。

「困窮」とは、経済的な困窮だけを意味しているのではなく、様々な事情により地域社会から孤立し、「相談する人がいない」という状態の人も含まれます。

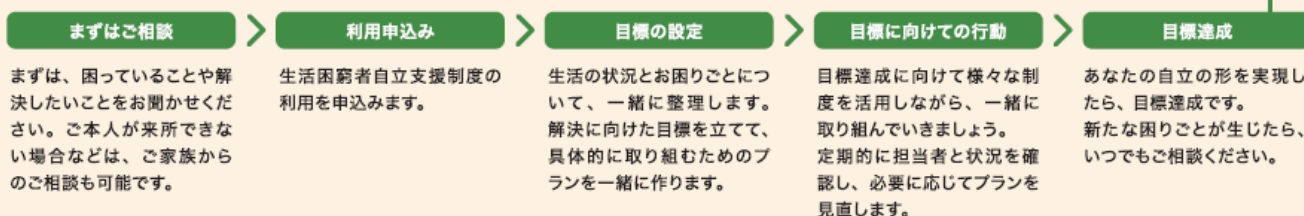
失業や介護・育児の困難、健康問題など、様々なきっかけで困窮状態になってしまうこともあります。

生活が困窮状態にある人は、自分から相談しづらいかもしれません。

あなたのまわりにそんな思いを抱えている人がいたら、区役所の相談窓口(生活支援課)をご紹介します。

あなたの気づきが、誰もが安心して暮らせるまちづくりの土台となるかもしれません。

相談の流れ



問合せ先:区役所 生活支援課(●ページ)

こどもたちと地域がつながるって、いいね！ ～こどもたちが主役となる地域の活動をはぐくむ～

近年、こどもたちと地域とのつながりが少なくなっているという声があります。

そこで、地域や団体・学校などがサポートし、こどもたちが地域で役割を持ち楽しみながら関われるような活動に取り組んでいるところもあります。

こどもたちはワクワクした楽しいことが大好きです。

地域のハロウィンのお手伝いや、季節のイベント企画など、ちょっとしたワクワク体験が「やってみたい！」「自分にもできる！」につながり、主体性もはぐくまれます。大人が温かく見守り、こどもの声を取り入れることで、地域もこどもも元気になります。

こうした温かいつながりが、地域の中で“こどもたちが主役となれる場”や、“こどもたちの主体的な活動”を作っていくきっかけになるのではないのでしょうか。

写真
(調整中)

つながりを通して 健やかに暮らせるまち

目標のイメージ

- 必要とする人に情報や支援が届く
- みんなが地域とつながる機会がある
- 地域で得意を活かす場がある
- 身近な健康づくりに取り組める場がある
- 心と体の健康が大切という意識が高まっている

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- ・地域の情報などに関心を持つ
- ・定期的に健康診断や歯科検診に行こう
- ・ウォーキングなどできることからやってみよう
- ・健康づくりのイベントや講座などに参加してみよう
- (区・区社協・ケアプラザの取組支援)「世代や障害あるなしに関わらずできるスポーツ」(17 ページへ)
- ・伝える人に合わせた情報の届け方を考えよう
- (区・区社協・ケアプラザの取組支援)「自治会町内会のデジタル化」(19 ページへ)
- ・ボランティア活動などで自分ができていることをやってみよう
- (区・区社協・ケアプラザの取組支援)「ボランティアセンター」(17 ページへ)
- 「こども食堂の取組」(19 ページへ)

<エピソード>

早朝に公園でラジオ体操に参加していた A さんが、転倒してけがをして歩くのも大変になってしまったが、椅子に座って体操ができるように工夫した。他の人も、これなら参加できる！と好評になり、参加者が増えた。

イラスト
準備中

区役所・区社協・ケアプラザの取組

- 健康づくりや介護予防活動等に参加する人や関心を持つ人を増やし、人材育成につなげます。

【事業例：区役所】フレイル予防サポーター養成講座

地域で健康づくり・介護予防の取組を推進する人材を育成し、フレイル予防の普及啓発や地域活動の活性化を目指します。



【活動指標】フレイル予防サポーター登録者数(累計)

令和6年度:38人(目指す方向性:↗)

<磯子区フレイル予防サポーターのみなさん>

- 得意なことを活かせる機会や場の紹介や、活動を広げていけるよう支援します。

【事業例：区社協】ボランティアセンター

ボランティアに関係する相談やコーディネートを行うほか、人材育成やネットワークづくりを行います。

写真
(調整中)

【活動指標】ボランティア登録数

令和6年度:□□人(目指す方向性:→)

- すべての年代の人が、心身の健康づくりに継続して取り組めるよう、身近な地域でつながりを増やしなが、健康づくりの活動を広げていけるよう支援します。

【事業例：ケアプラザ】ボッチャなどインクルーシブスポーツの取組

世代や障害あるなしに関わらずできるスポーツや、健康づくりの取組を実施します。

写真
(調整中)

【活動指標】世代や障害あるなしに関わらずできる健康づくりの取組参加者数

令和6年度:□□(目指す方向性:→)

- 地域の福祉保健に関する情報や地域情報等について、情報発信・収集・活用ができるよう推進します。

【事業例：区役所】出張！健康づくり応援隊

働き世代の区民のみなさんを対象に、食育・歯科口腔・運動・禁煙・検診・感染症の予防に関する啓発を保健活動推進員や関連企業等と連携して行います。



【活動指標】出張！健康づくり応援隊 参加人数

令和6年度:350人(目指す方向性:↗)

<保健活動推進員による血管年齢測定>

●身近な地域や場所で、区民のみなさんにとって必要な情報を届けます。

【事業例：ケアプラザ】地域主催の講座などでの情報提供

ケアプラザ以外の会場や地域主催のサロンなど、
様々な機会を捉えて、ケアプラザの職員が直接地域に出向き、
詐欺防止・介護予防・健康などの情報を伝えます。

写真
(調整中)

【活動指標】情報提供の場の数

令和6年度：□□箇所(目指す方向性：→)

<こんな取組もあります>

区民の口の健康を守る！

区役所では毎年6月の「歯と口の健康週間」に合わせ、
磯子区歯科医師会と連携して、啓発イベント等を実施しています。
歯ブラシなどの使い方から、噛む力の測定、
歯科医師・歯科衛生士の無料相談まで、体験メニューが豊富で、
参加者からは
「噛むことの大切さを知ることができた」
「子どもにもパネルや映像を見せたい」との声も。
ひとりでも多くの区民の人に、お口の健康の大切さが伝わるよう、
今後も歯科医師会とともに取り組んでいきます。



<出張！健康づくり応援隊での様子>

問合せ先：区役所 福祉保健課(●ページ参照)

磯子の魅力発信ポータルサイト「ISOGO+」を使ってまちに出てみよう

「ISOGO+」(いそごぷらす、"いそぷら")は、
磯子のまちを「ぷらぷら」と歩きたくなる情報が集まる
プラットフォームとして、さまざまな地域の魅力
をお届けしています。
みんなのおすすめスポットやまち歩き情報、
地域に根付き愛されている「磯子の逸品」を紹介。
区制100周年を契機に磯子への愛着や誇りを深め、
魅力と活気が未来へと続いていくまちを目指します。



<ISOGO+ 【いそごぷらす】>

問合せ先：区役所 区政推進課(●ページ参照)

<https://isogoplus.city.yokohama.lg.jp/>

自治会・町内会のデジタル化が進んでいます！

区役所では、自治会町内会へ ICT の専門的なアドバイザーによる出張講座や相談会を開催し、自治会町内会の情報発信などのデジタル化をお手伝いしています。

デジタル化の第一歩を考えている自治会には、初心者向けスマホ講座を開催したり、さらに活用を考えている自治会には、ホームページ作成や LINE などの SNS 情報発信ツール導入のサポートを行い、事務の効率化に役立っています。防災意識の高まりもあり、今後、連絡ツールとしてデジタル化の活用が想定されます。まずは自治会町内会のデジタル化について、関心を持ってもらえるように働きかけていきます。



<アドバイザーによるスマホ講習会>



<ホームページの開設>

問合せ先：区役所 地域振興課(●ページ参照)

こども食堂の取組～お腹も心もいっぱい～

調整中



共に支えあう お互いさまのまち

目標のイメージ

さりげない見守りの中で、支援が必要な人もそうでない人も、安心して暮らしている
ときに支え、支えられるという関係性や仕組みがある
それぞれの強みを活かし協力し、活動が広がっている

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- ・困ったときはお互いさまの気持ちで、日常生活でのちょっとした困りごとを手伝ってみよう
 - ・隣近所の人様子を気にかけよう
 - ・災害時に隣近所の人と連携してできることを考えよう
- (区・区社協・ケアプラザの取組支援)例:「防災講座」(21 ページへ)
- ・強みをいかして地域の活動を盛り上げていこう
- (区・区社協・ケアプラザの取組支援)例:「ボランティア交流会」(22 ページへ)

<エピソード>

小学 6 年の児童が朝登校時、いつも通る近所の一人暮らしの高齢男性宅の郵便ポストに新聞がたまっているの
に気づき、帰宅後母親に伝え、安否確認ができた。

イラスト
準備中

- 民生委員・児童委員、自治会町内会等の見守り支えあい等を通して、顔の見える関係づくりや支援の必要な人が専門機関の相談につながるよう支援します。

【事業例：区役所・区社協・ケアプラザ】民生委員・児童委員の活動支援

研修・広報のサポートをはじめ、情報交換などを通して
民生委員のみなさんが活動しやすいよう取り組んでいます。

【活動指標】民生委員・児童委員による高齢者等の訪問件数
令和6年度：34,841人(目指す方向性：→)

写真
(調整中)

- 地域活動を活発にするために、活動する人の育成とともに、こどものころから地域とつながる機会を提供します。

【事業例：区役所】若者世代へのボランティア活動支援

ボランティアに興味がある若者世代を
地域に派遣することにより、活動のやりがいや楽しさを感じてもらい、
地域活動の参加者の裾野を広げます。

【活動指標】ボランティア派遣者数
令和6年度：237人(目指す方向性：↗)



<学生ボランティア活動の様子>

- 防災・防犯や災害対策について広報し、区民一人ひとりの防災意識を高める「自助」「共助」の取組を啓発するとともに、ボランティアや関係機関とのネットワークを強化していきます。

【事業例：区役所】防災講座

大規模地震や風水害等に対する備えや避難行動などに関する講座を、
地域、小中学校、各種団体、事業所等に対し実施します。

【活動指標】防災アンケート
「災害に備えて3日以上防災備蓄を行っている」回答した人の割合
令和6年度：□□(目指す方向性：↗)

写真
(調整中)

- 地域に関わる人みんなで話し合い、考えるプロセスを大切にし、地域課題の解決に向けた取組を進めます。

【事業例：区社協】地域とつながるネットワーク

社会福祉法人、福祉施設等の地域貢献活動や災害時の
施設・地域連携などを目指し、話し合いを行っています。

【活動指標】取組回数、参加団体数
令和6年度：□□(目指す方向性：↗)

写真
(調整中)

- 区内企業と連携した地域活動や、福祉保健・文化施設等のさまざまな関係機関と協働しながら、誰でも参加できる交流の場や横のつながりを広げます。

【事業例：区社協】タクシー会社との連携による移動支援

身体的な理由などで外出が難しい人が
地域のサロン等に参加しやすくするため、
タクシー会社と連携して、会場までの移動支援を行います。

【活動指標】移動支援件数

令和6年度：□□（目指す方向性：→）

写真
（調整中）

- 区内の個人・団体・企業等から寄せられる寄付を寄付者の意向に基づき、適切に配分し、寄付文化を推進します。

【事業例：区社協】善意銀行・共同募金

区内の個人・団体・企業等からの寄付金品を寄付者の意向に基づき、
区内の地域福祉活動団体や障害当事者団体等に配分します。

【活動指標】寄付団体数

令和6年度：□□（目指す方向性：↗）

写真
（調整中）

- 地域の仲間が増えるよう、活動に参加しやすい情報を周知できるよう支援します。また、地域で活動する人がモチベーションを維持できるよう、活動周知や活動者・サポーター同士が繋がるきっかけづくりを支援します。

【事業例：ケアプラザ】ボランティア交流会

地域で活動する人が情報交換し、
お互いにつながり合う交流会を実施します。

【活動指標】ボランティア交流会 回数

令和6年度：□□（目指す方向性：→）

写真
（調整中）

<こんな取組もあります>

在宅避難のすすめ

地震や風水害が起きたとき、自宅が安全であれば、無理に避難所に行く必要はありません。

区役所では、災害時に在宅避難するための準備や、在宅避難できない場合の避難行動、連合地区別の避難所を示した地図を記載したリーフレットを作成しています。

「何を備えておけばいいか一覧になっていて分かりやすい」

「いざという時にどこの避難所にいけばいいかが一目でわかるので便利」

「こういうのが欲しかった」などと好評の声も。

飲料水、食料、トイレパックなどの備蓄品や、家具の転倒防止、

感震ブレーカーなどの自宅の安全対策を確認しましょう！

リーフレットは区役所総務課の窓口で配布しています。



問合せ先:区役所 総務課危機管理・地域防災担当(●ページ参照)

<在宅避難パンフレット>

ゆるやかな見守りの輪を広げる——企業と連携した地域福祉の新たなかたち「いそまる」

令和4年から始まった見守りネットワーク事業「いそまる」は、企業による地域貢献活動として、区内で着実に広がりを見せています。

企業の社員が通勤途中や外出の際に地域住民とあいさつを交わしたり、業務を通じて先方の様子に気になることがあれば

区社協へ情報提供を行うことで、

必要に応じて区役所や支援機関へとつないでいく仕組みです。



この取組の特徴は、福祉とはこれまで縁のなかった企業と協定を結び、地域の変化をいち早く察知できる「ゆるやかな見守りネットワーク」を構築している点にあります。動物病院やタクシー会社、生命保険会社など、業態の異なる企業が登録しており、それぞれの業務を通じて地域の課題に気づき、福祉につなげる役割を担っています。

例えば、動物病院を利用する高齢者が加齢により適正な飼育が困難になった場合、社員がその状況を察知し、支援機関へとつなぐケースもあります。また、多頭飼育の家庭など、加齢により自らSOSを発信しづらい世帯にも、動物管理の視点から少しずつ関わるができるようになりました。

企業側には、社員向けの研修を通じて福祉啓発を行っており、特殊詐欺など地域の防犯情報の提供も実施しています。

今後も、見守りに協力いただける企業との協定を進め、地域全体で支え合う体制づくりを目指していきます。

問合せ先:区社会福祉協議会(●ページ参照)

フードドライブ～「もったいない」を、「ありがとう」へ～

各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、地域の福祉団体や施設等へ寄附する活動を「フードドライブ」といいます。磯子区では、区役所地域振興課で通年フードドライブを実施しており、食品を必要としている人へ、区社協や市内フードバンク団体を通じて、無償でお渡ししています。



<区役所6階フードドライブ窓口>

「まだ食べられるのに、ごみにするのはもったいない…」
と思っているあなた！

環境に配慮した行動が、誰かの役に立ちます！

問合せ先：区役所 地域振興課(●ページ参照)

災害時の共助

～日頃のつながりが、災害時の助け合いに～

2024 年の能登半島沖地震では、地域での日頃のつながりが命を守る力になりました。

珠洲市三崎町寺家下出地区では、地震発生から約 25 分後に津波が襲来しましたが、住民約 90 人全員が高台の集会所へ避難し、命を守ることができました。この成果の背景には、住民同士の声かけや助け合いが自然に行われる関係性だったことや、普段から集会所で交流を深めていたことも迅速な避難につながりました。

鵜川地区でも、地震で家が倒れた人を近所の人たちが協力して助け出しました。東日本大震災の教訓を受けて、避難訓練を継続して実施したこともあり、住民同士がすぐに安否確認を行い、協力して救出活動を実施。障害のある人も含めて避難できました。

(出典：内閣府「防災情報のページ」)

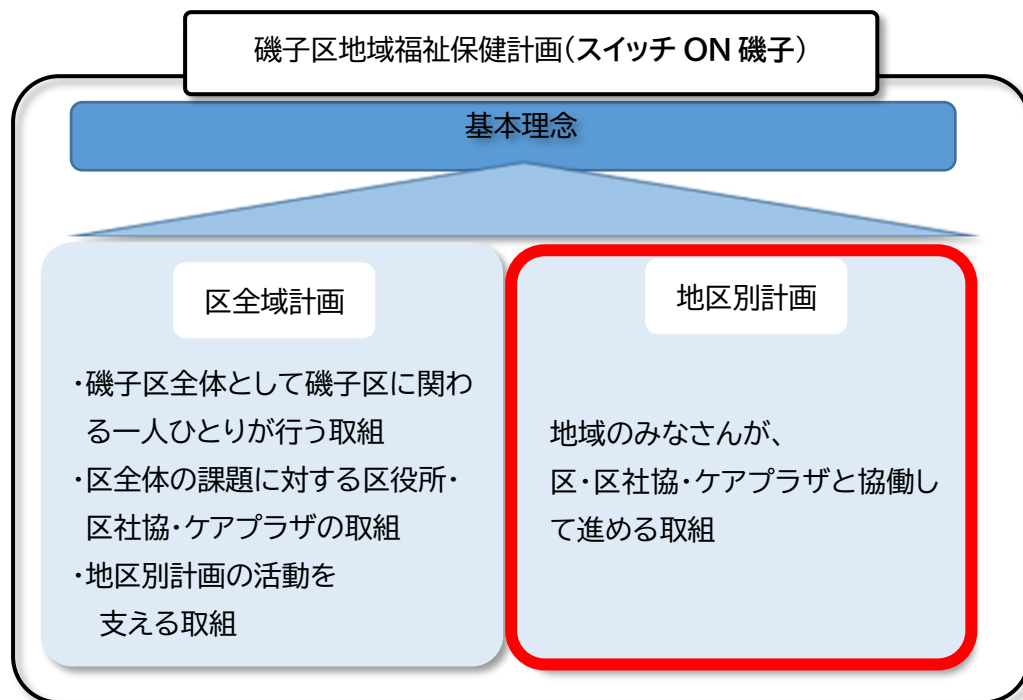
磯子区では、地域で暮らす知的障害のある人のお父さんが入院した際、ご近所の人々が代わりにごみ出しをしてくれ、災害時には近隣同士でペアを組み、互いに助け合おうと約束しているという話があります。このように、日頃からご近所同士で気に掛け合う関係が築かれている地域では、災害時にも自然と助け合いが生まれやすくなります。日常の中での小さな支えあい、非常時の大きな力となるのではないのでしょうか。

(3) 地区別計画

地区別計画とは、

9つの地区連合単位で自治会町内会、地区社協などの地域のみなさんで構成された「スイッチ ON 磯子推進組織」が中心となり、地区として力を入れて取り組んでいくことを中心にまとめたものです。

地域のみなさんと一緒に、区役所・区社協・ケアプラザが協働して進めます。



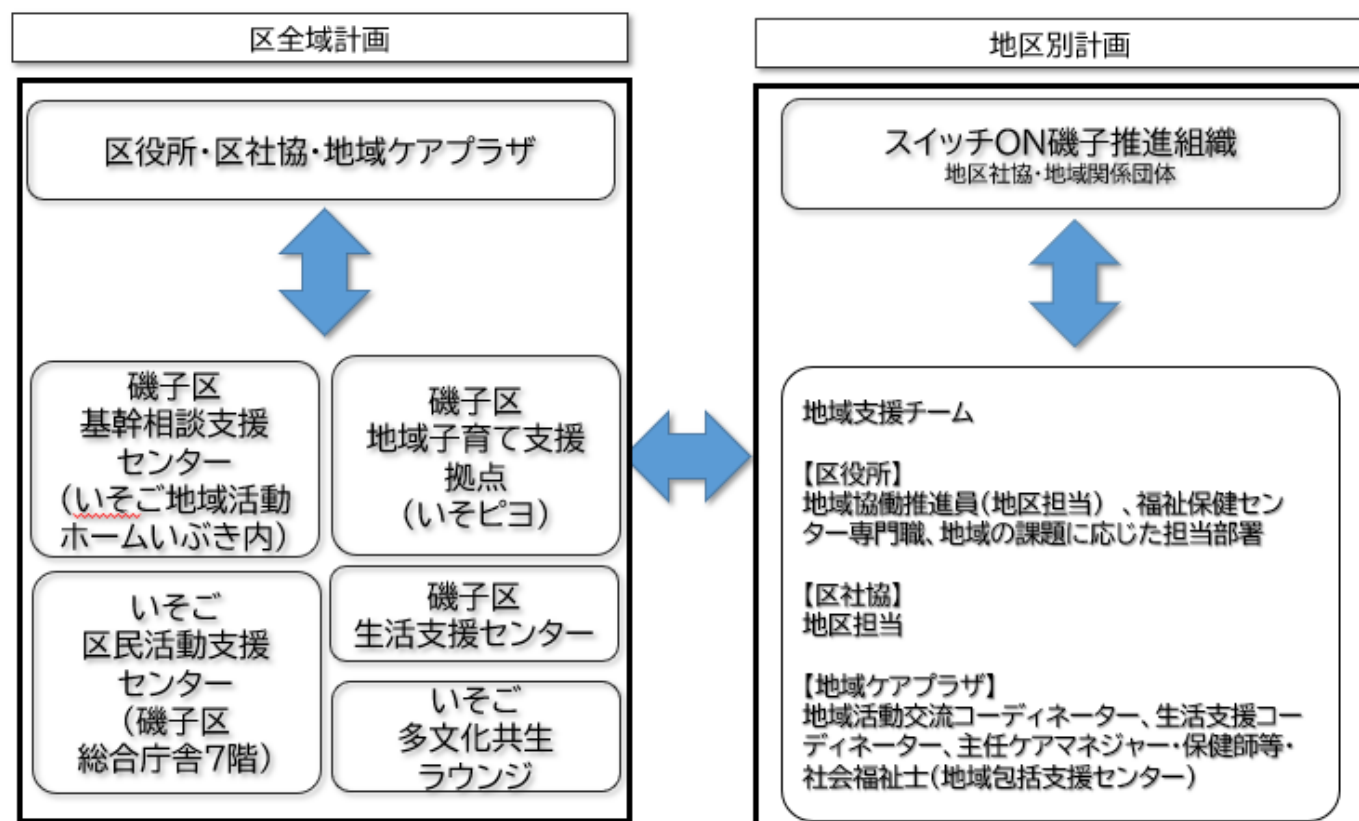
各地区で
準備中

(1) 計画の推進体制

区全域計画は、区役所、区社協、ケアプラザが、区全域を対象とした関係機関等、様々な団体と連携しながら推進していきます。

地区別計画は、地区連合町内会単位でスイッチON磯子推進組織のメンバーが中心となり、地域関係団体等と連携しながら推進していきます。各地区を区役所、区社協、ケアプラザから構成する地域支援チームが支援していきます。

<スイッチON磯子 推進体制 全体像>



区全域計画の推進体制

●推進主体

磯子区に関わる一人ひとり(私たち一人ひとり、地域や仲間)ができることを取り組むのはもとより、区役所・区社協・ケアプラザと、区域で活動する関係機関と連携して取組を推進します。

<区役所>

区全域計画の策定・推進の中心的な役割を担います。推進にあたっては、個別支援を通して把握した地域の課題や潜在的な課題も意識しながら取組を進めます。また、部や課を越えた連携による分野横断的な「地域と向き合う体制※」を整備し、地区別計画の策定・推進等の地域支援に取り組みます。

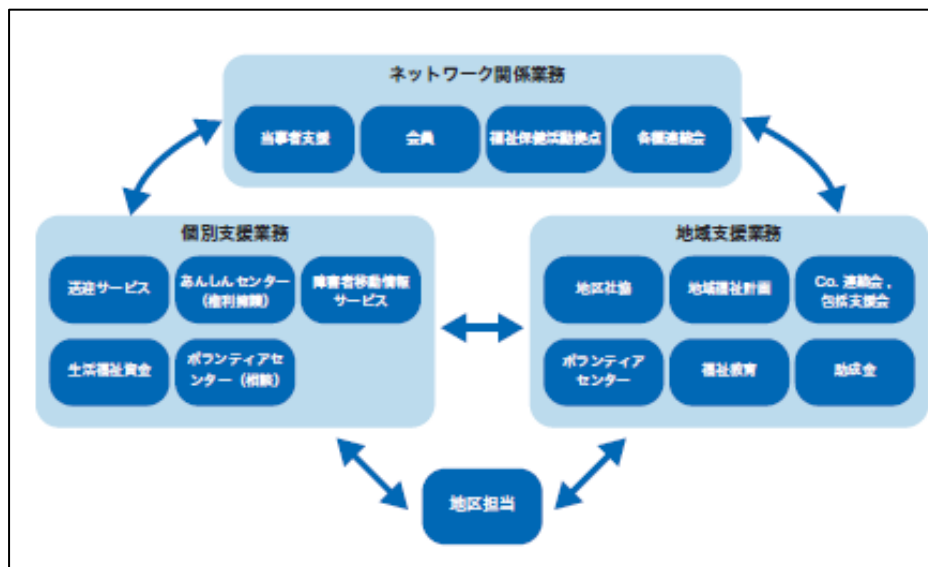
※地域のワンストップ窓口として、区役所の部長・課長・係長級が各地区を担当する体制

<区社会福祉協議会>

社会福祉法に基づいた民間法人で、地域住民福祉に関わる様々な施設や団体等により構成されている「協議会」です。「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」ことを活動理念としており、「地域活動計画」を策定しています。地域福祉保健計画は、区社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」としての性格を持っています。

区社協は、地域の福祉活動を応援するためのネットワークづくりや研修、活動への助成、ボランティアのコーディネート等のほか、個別の相談やサービス(権利擁護事業、移動情報センター、生活福祉資金等貸付)を行っています。

民間としての「自主性」と多くの人に支えられている「公共性」を併せ持っており、活動の財源には、会員からの会費や地域住民からの寄付である共同募金配分金等が生かされており、また多くの活動が地域のボランティアの皆さんに支えられていることが特徴です。民間団体である強みを生かし、多様なネットワークをつくり、地域づくりを進めていきます。



<地域ケアプラザ>

「地域の身近な福祉・保健の拠点」として、地域住民の福祉・保健活動やネットワークづくりや、住民主体による支えあいのある地域づくりを支援します。地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握し、それぞれの専門性を生かして総合的に支援していくとともに、地域の課題を明らかにして、地域住民とともに解決に取り組めます。

<地域ケアプラザの主な機能>

地域のボランティア等の活動・交流
自主事業の開催、情報の提供、活動の場の提供

地域包括支援センター
福祉保健に関する相談・支援

生活支援体制整備事業
地域の支えあいの推進

介護予防支援・居宅介護支援
ケアプラン作成

<地域ケアプラザの専門職>

地域活動交流コーディネーター
住民主体の地域づくりを関係機関と連携して支援します。

生活支援コーディネーター
高齢者が地域で暮らし続けるための地域づくりを支援します。

主任ケアマネジャー・保健師等・社会福祉士
(地域包括支援センター)
地域住民の保健医療の向上と福祉増進を目指し、包括的かつ継続的に心身の保持及び生活の安定のために必要な支援をします。

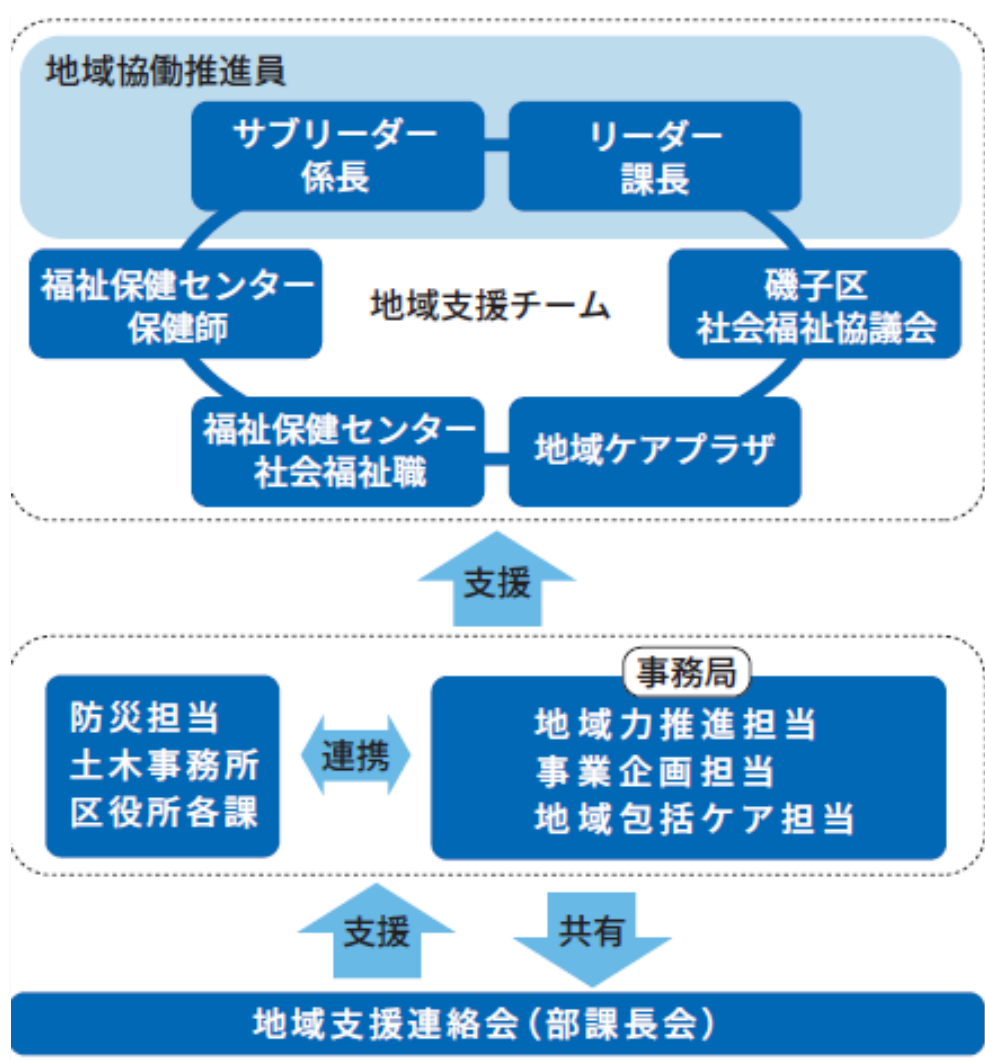
●推進主体

スイッチ ON 磯子推進組織中心に、地区の自治会町内会長や地区社協、民生委員・児童委員等の代表者、地域で活動する団体の役員などが、地区別計画推進組織の運営を担っています。

●支援・協働体制

地区別計画は、推進主体のみなさんと区役所・区社会福祉協議会・ケアプラザが協働して進める取組です。区役所・区社会福祉協議会・ケアプラザで構成する地域支援チームを連合町内会単位に設置し、地区別計画推進に向けて横断的に支援します。

<地域支援チーム>



(2) 計画の振り返り

区全域計画

●区役所・区社協・区内各ケアプラザの取組の評価

それぞれ年度ごとに「第2章」に掲載している事業を中心に振り返りを行い、量的及び質的な自己評価を行います。

・量的評価は、「活動指標」を用いて振り返ります。

活動指標一覧（再掲）

基本 目標	活動指標	現状値 (R6)	目指す方向性
Ⅰ	多文化共生ラウンジ総利用者数	3,857	↗
	Sunday いそピコにおける講座参加者数		↗
	福祉教育実施数		—
	認知症養成講座受講者数(累計)	23,312	↗
	同じ悩みを持った人が集まる場の数		—
Ⅱ	フレイル予防サポーター登録者数		↗
	ボランティアセンター登録数		—
	世代や障害あるなしに関わらずできる健康づくり取組参加者数		—
	出張！健康づくり応援隊 参加人数	35	調整中
	地域主催の講座などでの情報提供		—
Ⅲ	民生委員の訪問件数		—
	若者ボランティア派遣人数	—	
	「災害に備えて3日以上防災備蓄を行っている」回答した人の割合	—	↗
	社会福祉法人、福祉施設等の参加団体数		↗
	移動支援件数	—	—
	善意銀行・共同募金寄付金額		↗
	ボランティア交流会回数		—

・活動指標の評価になじまないものについては、質的評価を行います。

●策定・推進検討会への報告

区役所・区社協・区内各ケアプラザによる自己評価は、毎年度策定・推進検討会にて報告し、公表します。検討会での意見を踏まえ、計画推進を図ります。

地区別計画は、地域の皆さんが推進し、成果を残すことだけではなく、たくさんの人が参加して取組を進めていくことが大切です。また、取組を振り返ることは活動の内容や成果を認識でき、モチベーションを高めるとともに、振り返りの中での気づきを次に活かすことができます。

以上のことから、第5期スイッチ ON 磯子地区別計画では、新たに次の4つの視点をもって計画を推進し、振り返りを行っていきます。

●視点1

たくさんの人に取組を知ってもらえたか

まずは、自分が住む地域にどんな取組があるのか知ってもらうことが、参加してもらうための入口であるという観点から、「どのようにすれば多くの人に知ってもらえるのか」「情報が届くのか」といった視点で振り返ります。

●視点2

たくさんの人が参加したか

「これまであまり地域活動に出てこなかった人も参加したか」「地域みんなで積極的に取り組めたか」といった視点で振り返りを行います。

●視点3

たくさんの人と協力できたか、一緒にできたか

「いろいろな人や団体と連携して、一緒に取り組めたか」という視点で振り返りを行います。

●視点4

地域にメリットがあったかどうか

地域福祉保健の活動・取組の成果は数値で表しにくく、客観的に把握することが難しい面もあります。そのため、「地域にとってどのような良いことが起こったか」という視点で、具体的に振り返りを行います。

第5期計画の区全域計画・地区別計画を総合した推進状況を把握するため、「磯子区区民意識調査」等で、次の評価指標の現状値が、目標値に対してどのように変化したかを確認します。

令和8年度に区民意識調査(予定)を実施し、その後も同じ指標で調査することにより、経年変化がわかるようにします。

指標	目標	把握方法	目標値
相互理解が進んでいる割合	I	区民意識調査 等	R8 年度調査より上昇
地域に愛着を持っている人の割合	I	区民意識調査 等	R5年度調査より上昇
地域活動に参加している人の割合	II	区民意識調査 等	R5年度調査より上昇
主観的な健康状態	II	区民意識調査 等	R5年度調査より上昇
自身や家族に関する健康を気にしている人の割合	II	区民意識調査 等	R5年度調査より上昇
困ったときに地域で相談したり助け合ったりする人の割合	III	区民意識調査 等	R5年度調査より上昇
地域と NPO 法人、企業等が連携した取組の実施数	III	区社協把握数	R8 年度より上昇



区民一人ひとりや地域のみなさん、
区役所・区社協・ケアプラザ等の公的機関が
それぞれできることを取り組んだ結果、
基本目標にどれだけ近づいたか調査するよ！